

07年度事業と08年度の計画

委員長インタビュー

前橋皮膚科医院

大川 司院長



文部科学省の「学校・地域保健連携推進事業」の07年度予算は1億2800万円。委員会で同事業の学

# 全国36地域(77%)が参画 08年度は「学校紫外線対策」

日本臨床皮膚科医会の学校保健委員会は、文部科学省の「学校・地域保健連携推進事業」に対し、07年度も引き続き皮膚科の全国的な参画を目指して活動を推進した。さらに、皮膚科専門校医のための健康教育教材をはじめとするさまざまなインフラ整備を行うとともに、皮膚科の学校保健活動の周知・広報にも力を注ぐ。委員長の大川司・前橋皮膚科医院院長は、07年度から08年度を展望した同委員会の事業内容を他学会との連携体制も含めて聞いた。

文部科学省「学校専門校医(専門相談医)制度」平成19年度事業参画状況：日臨皮学校保健委員会調べ

県名	参画している科			
	皮膚科	小児科	産科	その他
北海道	○	○	○	○
青森	○	○	○	○
岩手	○	○	○	○
宮城	○	○	○	○
秋田	○	○	○	○
山形	○	○	○	○
福島	○	○	○	○
茨城	○	○	○	○
栃木	○	○	○	○
群馬	○	○	○	○
新潟	○	○	○	○
長野	○	○	○	○
東京	○	○	○	○
埼玉	○	○	○	○
千葉	○	○	○	○
神奈川	○	○	○	○
山梨	○	○	○	○
静岡	○	○	○	○
富山	○	○	○	○
石川	○	○	○	○
福井	○	○	○	○
岐阜	○	○	○	○
愛知	○	○	○	○
三重	○	○	○	○
滋賀	○	○	○	○
京都	○	○	○	○
大阪	○	○	○	○
兵庫	○	○	○	○
奈良	○	○	○	○
和歌山	○	○	○	○
鳥取	○	○	○	○
島根	○	○	○	○
岡山	○	○	○	○
広島	○	○	○	○
山口	○	○	○	○
徳島	○	○	○	○
香川	○	○	○	○
愛媛	○	○	○	○
高知	○	○	○	○
福岡	○	○	○	○
佐賀	○	○	○	○
長崎	○	○	○	○
熊本	○	○	○	○
大分	○	○	○	○
宮崎	○	○	○	○
鹿児島	○	○	○	○
沖縄	○	○	○	○

注：●は本年度新規参画 平成19年12月現在

校専門校医(専門相談医) 査を実施した。制度への皮膚科の参画地域をより拡大するため、前年都道府県中36地域(77%)が参画を果した。前年度の34地域(72%)よりも着実に増加。一方、いまだ本事業の参画状況アンケート調査を実施した。その結果、07年度は47(表参照)の参画地域が確認された。また、日本医師会が提言した皮膚科、精神科、整形科、産婦人科の4科体制への参画地域は34地域(72%)と全地域の7割に到達した。そのうち、本事業が全く行われていない地域も3地域存在したという。活動状況の解析では、全域で活動している地域は21地域(58%)、モデル地区を設定して活動している地域は10地域(28%)に及んだ。活動内容は皮膚科専門校医の学校への派遣が14地域(39%)、研修会や講演会の開催・養護教諭対象のものに結び付けていかなくてはならない。08年度は学校紫外線対策を重点検討課題とし、学校生活での日焼け止めクリームの使用について、ブルームの使用について、アレルギー疾患の検査、専門医の派遣と健康相談等の実施(学校専門校医制度の継続)。(都道府) 県の実情に即した学校保健推進計画の策定、モデル地区での実践サポートが同省より示されている。

## 皮膚科「学校専門校医制度」へ前進 日本臨床皮膚科医会学校保健委員会調査

### 健康教育用CD-ROM教材改訂版と新規編集 新年度から「皮膚救急」など



学校保健委員会は、07年度日本医師会の学校保健における健康教育等に関する研究助成」も受け、06年度に作成した皮膚科専門校医のための健康教育用教材(CD-ROM)3編に新たな情報や資料を加えて改訂、さらに新規に2編を作成した。これら計5編の内容は次のとおり。

- 1.「アトピー性皮膚炎」
- 2.「おしやれ障害」
- 3.「紫外線と皮膚」
- 4.「紫外線と皮膚」
- 5.「学校保健における感染症」

また、5の教材作成に伴い、04年12月に公表した「学校伝染病第3種(その他の伝染病)皮膚科の学校伝染病」に関する日本臨床皮膚科医会の統一見解」について再検討を行った。児童生徒・保護者向けの内容は、本会ホームページにも掲載した。大川委員長は「無料でダウンロードできるので、学校関係者の方にもリーフレットとして活用してほしい」と話す。

08年度からは「皮膚の救急」子どもの皮膚の特徴」などの教材を作成する計画だ。合連携事業」が始動した。

### 実態調査に着手 アレルギー疾患 取り組みも重視

文科省新規事業への参画と他学会との連携強化  
08年度は新たに文部科学省スポーツ・青少年局学校保健教育課管轄の「子ども健康を守る地域専門家総会」が開始した。

これは昨年度までの「学校・地域保健連携推進事業」を発展させたもの。予算は約1億1510万円。この事業の内容には、(都道府) 県の子どもの健康課題の検証、専門医の派遣と健康相談等の実施(学校専門校医制度の継続)。(都道府) 県の実情に即した学校保健推進計画の策定、モデル地区での実践サポートが同省より示されている。

# 第24回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会

会頭  
インタビュー

長村皮膚科クリニック  
理事長・院長

長村 洋三氏



第24回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会が5月24、25日に東京都港区の品川プリンスホテル・アネックスタワーで開催される。テーマは「楽しく、易しく、役に立つ」。

皮膚科クリニック院長によると、今大会は特別講演4題、教育講演11題、セミナーとスポンサードレクチャー13題、シンポジウム7題で構成されるという。

「具体的には膠原病や蕁麻疹、血管炎、アトピー性皮膚炎、メラノーマ、真菌症、乾燥、脱毛症、座そうなどの臨床・治療について取り上げます。またシンポジウムには新しい話題を多く盛り込みました」

特別講演の一つは、長谷川博・東邦大学理学部教授「初企画「一枚絵」で症例検討

## 初企画「一枚絵」で症例検討

### シンポでは学校保健活動報告も

「これはもともと埼玉県の数人の皮膚科医が、臨床スライドを1枚持ち寄って気楽に酒を酌み交わしながら症例検討をしようと思った会。大会では1〜数枚の臨床スライドを提示し、会場の先生方にデ

イスカッションアナライザーを用いて診断名を即答してもらうシステムです。臨床経験の浅い先生方には是非参加してほしいですね」

一方、シンポジウム2の「皮膚科における学校保健活動」時代の要請に乗り遅れないようにも目玉。小中学校における皮膚科医による相談活動や講演活動の実態を、パネリストの大川司・本学会学校保健委員、日野治子・日本小児皮膚科学会学校保健委

皮膚科クリニック院長による「絶滅危惧種アホウシロ」の復活を目指す。第1日目には初の企画として、「一枚絵」と称する枠が2時間設定されている。

「これはもともと埼玉県の数人の皮膚科医が、臨床スライドを1枚持ち寄って気楽に酒を酌み交わしながら症例検討をしようと思った会。大会では1〜数枚の臨床スライドを提示し、会場の先生方にデ

イスカッションアナライザーを用いて診断名を即答してもらうシステムです。臨床経験の浅い先生方には是非参加してほしいですね」

一方、シンポジウム2の「皮膚科における学校保健活動」時代の要請に乗り遅れないようにも目玉。小中学校における皮膚科医による相談活動や講演活動の実態を、パネリストの大川司・本学会学校保健委員、日野治子・日本小児皮膚科学会学校保健委

ホウドリの復活にかける長谷川先生の情熱に触れていただきしたいと思います」

「これはもともと埼玉県の数人の皮膚科医が、臨床スライドを1枚持ち寄って気楽に酒を酌み交わしながら症例検討をしようと思った会。大会では1〜数枚の臨床スライドを提示し、会場の先生方にデ

一方、シンポジウム2の「皮膚科における学校保健活動」時代の要請に乗り遅れないようにも目玉。小中学校における皮膚科医による相談活動や講演活動の実態を、パネリストの大川司・本学会学校保健委員、日野治子・日本小児皮膚科学会学校保健委

●市民公開講座  
「デルマドリーム」  
2日目の5月25日午後4時〜5時に無料の市民公開講座「デルマドリーム」が企画されている。会場は品川プリンスホテル・アネックスタワー5F B会場。

「デルマドリーム」とは内臓疾患から起こる皮膚の症状の意味。三橋善比古・東京医科大教授「皮膚は内臓の鏡」と、井崎誠一・埼玉医科大学大総合医療センター教授「皮膚から糖尿病がわかる」の講演がある。医師にも役立ち誰でも聴講可。